

読む蔵終了へー「記述」への新たな試み

いよいよ新年度がスタートしました。中2は新中3として、中1は新中2として、小6は新中1として今月からは扱います。そのつもりで気持ちを切り替えて勉強に取り組みましょう。今年も現塾生がどんな成長を見せてくれるのか、どんな新塾生との出会いがあるのか、私自身もこの時期はわくわくします。塾生諸君も初心を忘れず、一年間頑張り通しましょう。

現中3は塾のカリキュラムの中では卒業した形となりますが、実際は3月10日の公立入試にむけて、土日の直前特訓を受けながら前日まで塾で頑張ります。私立は名古屋、中京大中京、春日丘など、全員が特進・選抜コース合格を勝ち取り、うち数名は特待生合格を果たすなど、今年も良いスタートをきりました。しかし全員公立志望です。推薦ですでに第一志望校合格を決めた者も数名いますが、最後まできっちり受験勉強をやりきろうと、全員がこの直前特訓を受けるために残っています。意識の高さをうれしく思います。彼らが頑張りきって悔いのない受験ができるよう、最後まで私も力を尽くします。

さて、表題にありますように、2年弱試みが続けた「読む蔵」ですが、残念ながら3月をもちまして終了とさせていただくことにいたしました。理由としましては、きちんと自宅で自主的に続けられる塾生が大変少なくなってきたこと、web教材であるがゆえにシステムエラーが時々発生し受講生に迷惑をかけてしまうこと、速読力をつくものの読解問題が選択式であるために理解力が不十分でも露呈せずに次に進んでしまうこと、の3点が挙げられます。普段あまり読書にいそむことの少ない塾生にとっては、「読む蔵」は文学にふれるよい機会になったのではないのでしょうか。楽しく取り組んでいた塾生さんには大変申し訳ありませんが、ここでいちど「読む蔵」を卒業し、塾としましても次のステップに進んでいきたいと思えます。

国語は全ての教科の基礎です。国語力がなければ英語も理科も社会も、そしていずれは数学さえも壁にあたります。では、どうすれば国語力を伸ばすことができるのでしょうか。その最も有効な方法は、聞いた話、読んだ文章を要約する訓練を繰り返すことだと言われています。ただ、これには指導者の力量がかなり問われます。時間もかかります。そのため、塾という形態ではなかなか充実した国語指導が行われていないのが現状です。当塾では例年3年の夏から要約指導に入っていましたが、今年度から新教材「記述問題集」を用いまして中1の初めからやっていくつもりでおります。1ヶ月に1回程度の実施になるかと思いますが、実のあるものにしていきたいですね。力をつけるという意識を持って受けてください。